

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072500477		
法人名	有限会社グループホーム開門荘		
事業所名(ユニット名)	グループホーム開門荘(ふるさと)		
所在地	和歌山県新宮市熊野川町日足752		
自己評価作成日	平成30年11月5日	評価結果市町村受理日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然にめぐまれた中にある当ホームは、木の優しさを取り入れた建物となっている。さらにウッドデッキから見える四季折々の景色が認知症の方にとってもよい環境を与えていると思っている。また職員もゆったりと時間の流れの中で穏やかに暮らしていただけるよう、相互に馴染みのある関係づくりとその人らしい生活をサポートしていくように心がけている。地域との交流もあり、住民からの関心も高く、外出や散歩時お互いに挨拶ができる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・スタッフ共に常に「もう少し何かできないか」と向上心を持ち続けており、入居者の満足はこれで良いと言う限界はないという意識のもと支援内容を探求し実践に移している。食事に関して味覚・視覚を考慮された盛り付けなど食材に合わせた盛り付けと陶器の器にもこだわりがあり、入居者からも料理屋さんの料理のようだと満足の声がかかれた。共有空間の掲示ではスタッフによるハガキ大の俳画を工夫して飾られたり、暖かさを感じる木を壁や廊下に意識的に多く使用している。身体を使う介護はもとより、もうひと工夫で入居者の満足度を追求するスタッフの努力がよくみられ、雰囲気づくりに寄与している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域のなかで、その人らしく暮らすことの大切さと支援する目的を含めた理念と信条は毎朝の朝礼時に唱えるなど、日々の事業の中で管理者と職員が意識を高めるように取り組んでいる。	入居者の希望に添ったその人らしい暮らしが地域の中で実現できるように、朝のミーティングなど機会ある毎に理念を共有している。絵画として理念を書き込まれた額を掛け、視覚的にも楽しく、意識が高められる様に取り組み実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入し催事はもちろんのこと、地域の会議にも参加してホームへの理解や支援をお願いしている。また敬老会には地元の高齢者も招待するなど交流の機会を設けている。	加入している自治会から花見会、祭りなど招待されたり、施設から敬老会に地元高齢者を招待しボランティアが応援してくれることで参加者が増えたり、地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々には避難の際に協力をしていた。被災後も行政等の関係機関や地域の方々にも支援を受けながら、認知症に関する説明をしてその度にご理解をいただいていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて現状報告、課題となっていることを含め提示し意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議に参加している地域区長からの意見で盆踊りを施設敷地で行ったこともあった。会議での意見を事業所の取組やサービス向上の一つとして活かしている。消防分団も施設の見学に来て対策など相談を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当課へ直接出向いて連携をみにつに出来るように心がけている。地域包括支援センター職員とも連携をとっており、希望があれば見学等にも対応している。	市役所とは電話よりも、行き来する事が多く支所の担当者が不在の時は社会福祉協議会に寄り情報交換をしたり地域包括支援センターとも連携をとり協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者から朝礼時において、適時、身体拘束をしないケアに関する指導をおこなっている。	身体拘束をしないケアの実践を念頭におき、丁寧に入居者に添う事で、もうひと工夫出来る事はないかという意識を信念に、管理者・スタッフが検討し身体拘束しない良いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する国内での事故等の情報や行政機関の指導内容を適時、朝礼で報告したり職員用掲示板等にて提示したりして虐待に関する意識啓発に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・介護支援専門委員・リーダー等には権利擁護に関する理解を持たせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および解約時には、必要な書類のほかわかりやすいパンフレット等を用いて、利用者や家族に十分に納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の定期的に担当者より手書きによる生活状況の報告をしている。また家族の来訪が予定されている場合には、相談の内容をあらかじめ電話等により伝え効率的に話し合いができるようにしている。	面会、行事、毎月の「開門荘便り」の機会を通じて意見要望を聞き取り話し合いが出来るようなムードの場を作っている。ターミナルケアの希望は、医師や職員と家族で運営に反映させるよう取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の中で、職員からの意見や提案があれば、積極的に申し出てもらうように伝えている。また管理者が朝礼時や現場で職員と直接話し合うことで、意見が言いやすい雰囲気作りにも努めている。	管理者が定例会議や朝礼時に直接職員の提案意見が出し易い雰囲気を作りながら積極的に聞き、職員から、寝たきり介護の検討や講習を受けて技術や質を高めたい等意見が活発に出されサービス向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲や勤務態度も参考にして昇給されるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年も希望者があれば実践者研修に出席していただきたいと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県レベルの連絡会議には積極的に出席して情報共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から離れる不安を理解し傾聴や受容等の相談援助に心がけるとともに、受け持ち職員が本人との馴染みの関係が早く構築できるように、寄り添って重点的に支援するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入荘にあたっては家族の困りごとやニーズを把握するための面談の機会や専用のアセスメントシートに記入してもらがなど、情報把握できる手段を多く持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や言動に十分注意し、家族との連携を図りながら、各症状に対する理解を深め、一日も早く落ち着いた時間が確保できるように努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本ホームの理念にも謳っているが、「感謝の心で共に生きる」という姿勢を忘れずに支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「感謝の心で生きる」という意味は、本人・家族・職員・地域によって構成されるので、家族と寄り添いながら本人を支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族・関係者などからの聞き取りにより、本人が馴染みを感じている、人、もの、出来事についてできるだけ多く把握するようにして支援時に生かすよう取り組んでいる。	『自分がして欲しい事は何か高齢に成っても想いは同じく再三繰り返えられる』を基本に、想いや希望を表情や会話から読み取っている。墓参など馴染みの関係が途絶えないよう希望が適えつづけられる支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や嗜好によってグループ化はさけられないが、職員が適時に声かけをしたり、散歩やレクリエーション等へのお誘いをしたりすることで、一人ひとりの尊厳を大切にした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退荘には家族へ、相談や悩み事があれば対応していくことを伝える。退荘者の家族や親せき等から近況等についての連絡や手紙をいただくことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族や関係者からの聞き取りを行い、入居後も日々の生活の中で言動の一つ一つ注意して把握に努める。	入居時、家族や関係者から暮らし方等聞き取り情報を受けているが、入居後も日々の言動を把握したり職員に意見を聞きながら洞察し困難な場合でも本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報、在宅でのケアマネジャーからの情報等受け取るとともに、ご本人から可能であれば聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動等の記録をしたり職員間でその内容の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々課題が見つければ職員間ご家族等と課題解決に努め、介護計画に反映させている。	介護支援専門員と実践者研修修了者が中心になり、家族、本人、職員との意見を話し合い介護計画に反映させ、3ヶ月に1回は見直し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に加え変化が見られた時には特に記録と情報共有に努めている。そのうえで介護の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は心がけはいるが、サービスの多機能化等の実践には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	基本的に、これまでのかかりつけ医を継続できるように支援している。病院等の理由で新たなかかりつけ医の選択も、本人、家族が行い滞りないよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、これまでのかかりつけ医を継続できるように支援している。病院等の理由で新たなかかりつけ医の選択も、本人、家族が行い滞りないよう支援している。	嘱託医は内科の医師に依頼し、かかりつけ医は本人家族の希望に添い受診や往診など家族か職員が付き添い、望まれる医療が適切に受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが、必要時には訪問看護師の協働を得る体制をとっている。日々の受診を通じて、かかりつけ医との情報提供も必ず受ける等関係作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要に応じてアセスメント等の情報提供を行っている。退院後の生活に支障のないよう、病院からの情報提供も必ず受ける等の関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの前例はまだ少ないが、ご本人、ご家族の希望に添い必要な医療体制を整えたい。	終末期ケアについて、医師・職員間で協議を進めているが、十分な体制ではないので検討を継続している。	終末期ケア要望者に対する家族説明と医師との連携など基本的な内容を整えるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。今後の検討課題。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。	年2回避難訓練には近所の方も参加したり運営推進会議での情報交換で地区消防からも施設見学に来てもらい協力の声を貰っている。地域から施設の状況も理解され、水害を受けたときなど多量の飲料水が届けられ助けられた。	近隣住民に近い避難地として緊急時の対応などを更に話し合い、水害避難対策も検討を進めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の遵守の必要性の理解の上、入居者一人ひとりの人格の理解尊重する対応や言葉使いを心がけて実施したい。	スタッフそれぞれの違いは有るがトイレ声掛け時は耳元に近く小声で伝えるようにしている。食事介助には職員が寄り添い介助しながら食事し、入居者に合わせてゆったりと時間を合わせながら、優しく介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発言した言葉そのままに記録し職員間での情報共有に努めたい、その思いが実現できる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合わせて食事していただく等できるかぎりペースに合わせられるような対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の設定の仕方、衣類の洗濯、持ち物など個性や希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて自然な形で食事の準備片付け関わって頂いている。季節の食事に関すること、餅つき、寿司作りなど職員と入居者が一緒に行っている。	食事時はお互い談話ができるようテレビを消して情報交換の場づくりに努め、後片付けや献立など味見を頼んだり、季節食は餅つきや寿司作りなどスタッフと一緒にいき雰囲気盛り上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事摂取、水分摂取量の把握咀嚼力等に合わせた食事形態を工夫する等支援している。健康状態に合わせた捕食の提供等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケア義歯の洗浄は毎日続けている。特に残菌のある入居者さんのケアには歯を大切にしたケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排尿チェック表を作成しては把握と対応に努めている。1人1人の残存機能、正確に合わせた排泄支援をしている。	個別の24時間排泄シートを作成し排泄パターンを把握しながら残存機能に合わせた排泄支援をしている。ポータブルトイレは使用せず自立に向けた介助を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の量、形状等記録をすることで入居者の健康状態にも注意している。下剤に頼りすぎないように、蜂蜜、牛乳の提供など個人的に合わせた対応に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者さんの健康状態、希望に合わせて入浴していただいている。入浴が好きではない入居者も多いが声かけのタイミング声かけの仕方を工夫し楽しんでいただけるよう支援している。	入居者の健康状態や希望に合わせて入浴してもらい、好きでない方には声掛けのタイミングを工夫するなど個々にそった入浴支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる時間、場所が入居者さんの好みに合うように支援している。できるだけ睡眠薬に頼らない支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬内容は情報として残し職員間で情報供給している。不安な点があるときは医療機関に確認し職員単独で判断しないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴、楽しみに思っていることをアセスメントし、日々の生活に取り入れるよう努力している。職員間でのアイデアを取り上げる支援も心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊は本人の体調に問題のない限りいつでも可能である。散歩は希望のある人を中心に、買い物外出などできる限り皆さんが出かけられるよう支援している。	受診のついでに買い物に行ったり、希望のある方を中心に散歩がてらのショッピングを楽しんだりしている。墓参り希望も多く、昔来た時の墓石の場所がわからず前住職と会い案内で参る事が出来たこともある。入居者からはその後墓参りたいと希望が出るなど、出来ただけ希望に応えようと支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所有できる人は自身が管理している。購入物によっては家族に連絡を取り対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の支援、手紙の投函の支援は行っている。遠方のご家族より贈り物があつたときは会話できる入居者さんには電話で直接話していただく支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木の暖かさを意識して作っている。どの部屋も掃き出し窓で明るく外気もよく入る。ウッドデッキも利用しやすく日光浴や自然の風を感じていただける。また景色もよく見えるので季節感を感じられ気分良い環境となっている。	室内は木の暖かさ意識して木質を大切に生かされ、暖かい落ち着いた雰囲気になっている。広い窓やドアから自然な光が入り季節感が満喫できウッドデッキが利用しやすく居心地の良い工夫で配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、ソファ・テレビを置き、気の合う利用者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具はできるだけ馴染みあるものを使用していただけようご家族にはお願いしている。好みのものを置くなど本人が居心地よい居室作りを心がけている。	居室の家具は馴染みのあるものを家族にお願いしており、本人が居心地よく過ごせるように整理されている。周囲に写真や小物など飾ることで自分らしい生活が送れるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんのこと、トイレや洗面所は、一般家庭と同じような仕様とし、本人が在宅でいたようなイメージで暮らせるよう配慮している。		